

第六十三回神田古本まつりの収獲（三）

土屋 博

二十一「日本精神と儒教」諸橋轍次著

（帝國漢學普及會、昭和十年再販、定價貳圓、二九〇頁）

古書價格千八百圓也。昭和九年八月、群馬縣教員學識向上講習會、三日十二時間の講演記録なり。著者、詩經と萬葉集を比較し、詩經は時勢を恨み悲觀する詩多いに對し、萬葉集は樂天的愉快な、どんなに貧乏しても常に安心立命の地を求める詩多し、と。

二十二「日本外史論贊 附譯文」

（雄山閣文庫、昭和十二年刊、定價本誌とも六拾錢、八九頁）

古書價格三百圓也。雜誌古典研究の第二附録なり。賴山陽「日本外史」の論贊部分のみを纏めて居り、携帶に便利。

二十三「文部省藏版 古事記」

（社會教育會、昭和十三年五版、定價金八拾錢、四六八頁）

古書價格千百圓也。初版は昭和七年。日本思想叢書の第五編なり。學習院大學次田潤教授に委囑したるものにて、解題、口語譯、直譯讀み下し文、整備せられ、便利至極。

二十四「古事記傳の研究」

（聖文閣、昭和十六年刊、定價壹圓五拾錢、二五五頁）

古書價格二百圓也。皇國文學シリーズの第二卷なり。執筆者は佐佐木信綱、吉田精一、鹽田良平、山岸徳平ら。佐佐木信綱曰く、本居宣長の古事記傳は、成稿から出版完成まで五十九年を要し、著者、發行者、印刷者、及び擁護者のすべてが、親子二代の心血を注ぎし由。

二十五「修正増補 日本精神の本質」文學博士井上哲次郎著

（廣文堂、昭和十六年刊、定價金貳圓八拾錢、五一〇頁）

古書價格二千圓也。「日本神話の特質」に於いては、日本神話の特色として次の五點を擧ぐ。①國家經營の神話なること、②其の道德的なること、③神々の間に立派なる秩序の存すること、④陰性的ならずして陽性的なること（天照大神は太陽神）、⑤寶祚は永久無限に隆えるとの大預言。

二十六「賴山陽の日本史詩」山天蔭著

(寶雲舎、昭和二十年二月刊、定價四圓五拾錢、二五四頁)

古書價格三百圓也。二度目の購入なり。例言によらば、本書はさきの上梓したる「日本樂府物語」の改訂版の由。

二十七「中國文學入門」吉川幸次郎著

(弘文堂アテネ文庫、昭和二十六年刊、定價參拾圓、七六頁)

古書價格百圓也。敍説に曰く、中國に於ては傳統として教養のある人々は單に受動的に文學を鑑賞するだけでなく、自分自身詩の作者でなければならぬ、と。

二十八「源氏物語入門」池田龜鑑著

(現代教養文庫、昭和三十六年十刷、定價八拾圓、一六九頁)

古書價格百圓也。本書の初版は昭和三十二年なれば、池田龜鑑(一八九六年生れ、一九五六年歿。東京高師卒業後、廻り道をして五十八歳にて東大教授に。)急逝の直後に出されたる書籍なり。

二十九「わが師・わが學」池田彌三郎著

(櫻楓社、昭和四十二年刊、定價千八百圓、四九〇頁)

古書價格千百圓也。池田彌三郎(一九一四年生れ、一九八二年歿)は、銀座の天麩羅屋天金の次男として生れ、泰明小學校、府立一中、慶應大學國文科卒、慶應大學教授。本書の中にある「源氏物語試論」によれば、紫式部の歿年齢については、三十九歳説と四十五歳説の二説ある由。いづれにせよ、今より見れば、夫との死別後、短き人生の間に立派なる業績を擧げたるものと感心する外なし。

三十「百首通見 小倉百人一首全評釋」安東次男著

(集英社、昭和四十八年刊、二四五頁)

古書價格三百圓也。安東次男(一九一九年生れ、二〇〇五年歿)は、三高文丙(フランス語)、東大經濟を経て、海軍主計大尉。戦後は都立櫻町高校教諭、國學院講師を経て、東京外大教授。その後詩作に轉ず。著者あとがきに曰く、百人一首の撰歌、歌留多としては最適なるも、歌そのものとしては具合悪しと。

(令和五年一月三十一日受附)